

黒石市の中心街には、近代に活躍した政治家・実業家、そして篤志家だった加藤宇兵衛の庭園と邸宅があり、現在は「金平成園」として一般に公開されている。

1902（明治35）年、

立憲政友会の政治家である加藤は、県政から国政へ活躍の場を移した。1907（明治40）年には補欠選挙で貴族院の多額納税者議員になり、1911（明治44）年に任期満了をむかえ



金平成園での加藤宇兵衛と政友会幹部＝1916（大正5）年9月・田村良子さん提供
〔『青森県史資料編近代3』より転載〕

る。

写真は政友会の幹部が加藤家を訪ねた際に撮影されたものである。先頭が加藤で、その後ろが幹部の一人である元田肇だ。彼らは「邸宅の結構、設備の完全なる、地方には真に稀れに見る所なり」と称賛した〔『青森県史資料編近代3』〕。

しかし、彼と東京あるいは中央とのつながりは、政

金平成園 見学と案内人

中園 美穂

（弘前大学非常勤講師）

治の世界だけではなかった。例えば、1899（明治32）年に東京園芸協会へ加入している。東京青山の学稼園内に事務所を置いた同協会は、野菜や果樹、各種植物の栽培や発達を目的として誕生した。彼が加入したのは、リング栽培や庭園造りに関心を寄せていたためだろう。

1921（大正10）年、庭師の佐藤忠吉は、加藤に

勧められ、日本庭園協会が主催する第2回庭園講習会に参加した。加藤は、中央の造園界の情報も収集していたことになる。5日間の講習会は、東京小石川区（現文京区）の川端画学校で開催された。講師陣の大多数は、本多静六や龍居松之助博士など、日本庭園協会の理事である研究者が占めた。

受講生は、五つの名園を見学している。名園とは、小石川区の細川侯爵家の庭園（現肥後細川庭園）や、浅草区（現台東区）にある浅草寺の伝法院庭園などだ。回遊式の池泉庭園や築山林泉庭園に施された木々と石組みの配置や、面積以上に広く見せる工夫などを間近で見ることが出来た。講習の修了者には本多博士から講習証書が授与された。

修了者である佐藤は、この講習会を契機にして金平成園の専属庭師となる決意をしたという。実は、彼の父親も庭師だった。講習会に参加したことが、彼の庭師人生の画期になったのだ。

1925（大正14）年、龍居博士が北海道と青森県

に所在する庭園や公園を見学するためやって来た。彼は、南津軽郡黒石町（現黒石市）に所在する大石武学流の各庭園を訪問し、所感を「東北庭園瞥見記」に記している。

龍居は金平成園を「恐らく黒石町の名物であらう」と絶賛。広大な庭園でありながら、小さな庭を造るようには注意深く材料を集め、所々に意匠を凝らし、よくまとまった庭園であると評価した。庭園研究者の視点で金平成園が分析されたのは興味深い。

黒石町の庭園を見学する龍居を案内したのは、日本庭園協会の会員になっていた佐藤と、郷土史家の中道等だった。彼は、案内役の佐藤と中道の労に対し、謝辞を述べている。

初めて施設や機関を見学するにあたり、案内人の存在は重要な意味を持つ。現在の金平成園は、こみせ観光ボランティアガイドの会の会員たちが案内役を務めている。会員は、金平成園の魅力を紹介するという重要な役割を担っていることなるう。

日本東京と青森 669号
東京青森県人会 2024年1月